

一一八六番

あさりする 海人娘子らが 袖通り 濡れにし衣
干せど乾かず

一一八七番

網引する 海人とか見らむ 飽の浦の 清き荒磯
を 見に来し我を

一一八八番

山越えて 遠津の浜の 石つつじ 我が来るまで
に 含みてあり待て

一一八九番

大き海に あらしな吹きそ しなが鳥 猪名の湊
に 舟泊つるまで